

記者発表（発表・資料配付）				
月/日	担当	電話	発表者名	その他
12/21 (火)	兵庫県立健康生活科学研究所 生活科学総合センター	078(302)4028 (相談調査課)	センター長 圓尾辰夫 (主幹兼相談調査課長 本多三洋子)	-

「低温やけど」にご注意を！！

兵庫県内の消費生活相談窓口には毎年のように、電気あんか、電気毛布、カイロ（使い捨て式）及び湯たんぽ等の製品による「低温やけど」に関する苦情相談が寄せられています。「低温やけど」は自覚症状を伴わず発症するケースが多く、皮下組織が壊死して重篤になることもあります。本格的な冬に向けて、「低温やけど」について注意喚起します。

1. 「低温やけど」に関する相談状況

兵庫県内の消費生活相談窓口に寄せられた「低温やけど」に関する相談は2006年度～2010年度（10月末）までの約5年間に12件、製品では湯たんぽ5件、電気あんか3件、以下電気毛布、使い捨てカイロ、ひざ用サポーター（カイロ付）、遠赤外線暖房器具が各1件です（表1）。

表1. 「低温やけど」に関する相談の受付件数

年 度	件 数	製 品 名					
		湯たんぽ	電気あんか	電気毛布	使い捨てカイロ	ひざ用サポーター（カイロ付）	遠赤外線暖房器具
2006	2	1	1				
2007	1	1					
2008	4	2	2				
2009	2	1			1		
2010 (10月末)	3			1		1	1
合 計	12	5	3	1	1	1	1

低温やけどとは

「低温やけど」は、温かく心地よいと感じる温度のものでも、皮膚の同じ部位に長時間触れることで発生するやけどです。「低温やけど」は、皮膚の表面はわずかなやけどに見えても、長時間にわたって熱の影響を受けるため、やけどが皮膚の深い組織まで進行し、筋肉等が壊死してしまうこともあり、見た目よりも治療に手間がかかるといわれています。また、「低温やけど」は自覚症状を伴わない場合もあります。

皮膚の温度と低温やけどになるまでのおよその時間は下記のとおり。

44℃では3時間～4時間

46℃では30分～1時間

50℃では2分～3分

〔出典：山田幸生，「製品と安全 第72号」低温やけどについて，製品安全協会〕

2. 「低温やけど」に関する具体的な相談事例

事例1. 湯たんぽ

就寝時に、プラスチック製湯たんぽを専用の布袋に入れて使用したところ、ふくらはぎに低温やけどを負った。うっかり足に当たったままになっていたらしい。製品に低温やけどに関する注意表示があった。皮膚科で3週間くらいの治療が必要と言われた。(神戸市, 30歳代女性)

事例2. 電気あんか

5年前に購入した電気あんかを使用したところ、足首に低温やけどを負った。治療中。(神戸市, 40歳代女性)

事例3. ひざ用サポーター(カイロ製品)

軽度の認知症の父親(70歳代)が、右ひざが痛むと言うので、使い捨て式カイロを入れて使用するひざ用サポーターを右ひざに着用したまま就寝、翌日ひざの左右両側のカイロが接する部分に低温やけどを負った。〔右写真〕商品の注意喚起の表示がわかりにくい。(姫路市, 40歳代女性)



写真. 事例3のひざ用サポーター(カイロ付)により低温やけどを負った右膝外側〔治療後約1週間〕

事例4. 遠赤外線暖房器具

遠赤外線暖房器具を約2ヶ月間、毎日4時間程度使用していたところ、左脚のももとすねの内側にあざができた。衣類に変化はなく、特に熱いと感じなかった。医師の診断は低温やけど。9ヶ月経つが治療中。(明石市, 40歳代男性)



事故原因

いずれの事例も、製品が長時間皮膚に接触、又は同じ部位が加熱された結果、「低温やけど」を負ったものと推定されます。〔事例3：事業者に対して「低温やけど」に関する表示の改善を要望〕

3. 「低温やけど」にならない為のアドバイス

「低温やけど」は、比較的低い温度のものでも、皮膚の同じ部位に長時間触れることで発生します。特に乳幼児や高齢者、糖尿病等で血行障害等がある人が使用する際は、周囲の人が注意しましょう。万が一、「低温やけど(皮膚の変色や痛み)」が起きたときは、できるだけ早期に医師の診察を受けましょう。

<<製品毎の使用上の注意>>

(1) 湯たんぽ, 電気あんか

就寝時には必ず、湯たんぽは布団から取り出し、電気あんかはスイッチを切る。
(就寝時に専用のカバーを使用しても、低温やけどの危険性は回避されない。)

(2) 電気こたつ, 電気カーペット

就寝時に使用する際には、通電したままにせず必ずスイッチを切る。

(3) カイロ製品

カイロ製品は取扱説明書の使用法、使用時間を守り、就寝時には使用しない。また、同じ部位に長時間使用せず、ベルト等でカイロの上から血流を圧迫しない。

(4) 遠赤外線暖房器具

長時間同じ部位が加熱されないよう気を付ける。